

【用語】無宿―百姓・町人などで人別帳からはずされて放浪し、家や職業をもたない者 目籠―目の粗い竹籠 不寝番人―一晚中寝ないで見張りをする人 懈り―怠り、なまけること 越度―罪 別廉―特別な、とくに 金井宿―渋川市金井

【解説】三国街道は、越後諸大名や佐渡奉行のほか、佐渡金山坑内の水替え人足として江戸の無宿人が護送される道でもあった。佐渡送り無宿人の通行には、一般に中山道本庄宿から玉村宿へ至り、そこから利根川右岸の総社・大久保・八木原を経て三国街道渋川宿へ合流する佐渡奉行街道が利用されたが、中山道から北国街道のルートが利用されることもあった。無宿人の佐渡送りは安永七年（一七七八）が最初といわれ、彼らは唐丸籠に入れられて、毎年四月から八月の間に十数人が送られ、佐渡奉行配下の役人が付き添って通行した。その護送は宿人馬による継送りではなく、通し人足で送られ、江戸から佐渡までの所用日数は十日余りであったようである。

この文書は、安政二年（一八五五）佐渡送りの無宿二三人の宿泊に際して、三国街道金井宿の役人と無宿宿が佐渡奉行所の役人へ出した預かり証文である。金井宿では、その逃亡に備えるため不寝番を立て、一晚中警戒にあたっていたことがわかる。なお、佐渡で産出された金荷物の輸送には、三国街道より安全性の高い北国街道から中山道の経路が主に利用された。